

平成17年度 事務事業評価表					
(様式1)					
記入年月日	平成17年4月15日			記入者	内線 3182
部 名	都市部	課 名	都市交通計画課	課長名	大村秀雄
事務事業名	バス活性化事業				
予算上の事務事業名	バス活性化事業				
1 総合計画における位置づけ	施策コード			33120	
基本目標	「躍動し 魅力あふれる交流拠点都市」をめざして				
政 策 名	第3章 利便性の高い公共交通網の確立をめざします				
基本施策名	第1節 利便性の高い公共交通網の確立				事業開始年度
施 策 名	第2施策 利便性の高い公共交通網の整備				昭和63年以前 ▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等					
相模原市バス利用促進等総合対策事業補助金交付要綱 公共交通移動円滑化設備整備費補助金交付要綱(国)					
3 個別計画の概要			概要		
計画名	相模原市バス交通対策基本計画		規制緩和のもと、生活交通であるバス交通を確保すると共にバス利用促進を図ることで「効率的かつ利用しやすいバス路線網の実現を目指す。		
計画年次	15	年度～	32	年度	
4 事業形態の区分 助成(給付・補助・貸付) ▼					
5 事業概要					
(1) 事業の目的(何のために行うのかまたはもたらしたい成果)			(2) 対象(誰、何)		
基本計画を推進し、自動車交通への過度な依存からの転換、低公害化、バリアフリー化等を促進すると共に、バス待ち環境の改善等によるバス利用促進を図ることにより、環境にやさしく、高齢社会に対応可能なバス交通を実現する。			バス事業者		
(3) 平成16年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。					
交付団体数：1団体 ・バス停留所上屋設置事業<補助率1/2> 補助額1,200千円 ・ノンステップバス導入事業(国との協調事業)<補助率：標準車両との価格差の1/2> 補助額2,874千円					
6 関連・類似事業や他市の状況					
7 事業費の推移 [単位：千円]					
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)
事業費	4,122	3,857	4,074	5,320	5,320
一般財源	4,122	3,857	4,074	5,320	5,320
受益者負担金	0	0	0	0	0
その他の特定財源	0	0	0	0	0
人件費の合計	662	662	662	662	662
事業コスト合計(a)	4,784	4,519	4,736	5,982	5,982
8 事業効率・・・(複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業)					
主たる事業名	バス停留所上屋設置事業			対象名称(単位)	設置件数
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)
事業コスト(主たる事業)	1,697	1,697	1,697	1,817	1,817
対象数	2	2	2	2	2
単位あたり経費(円)	848,500	848,500	848,500	908,500	908,500
前年度比		1.00	1.00	1.07	1.00

9 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化					
指標名 (単位)	設置件数	指標式と指標の説明		上屋設置件数	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度(目標)
実績	2.0	2.0	2.0		
目標	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
目標達成度	1.00	1.00	1.00		
10 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標					
指標名 (単位)	設置率	指標式と指標の説明		上屋の設置済箇所数 / 上屋の設置可能箇所数	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度(目標)
実績	203.0	205.0	207.0		
目標	230.0	230.0	230.0	230.0	230.0
目標達成度	88.3	89.1	90.0		
11 個別評価					
(1) 妥当性の評価 【A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない】					
A	<input type="checkbox"/>	法令等により実施することが義務付けられている。			
	<input type="checkbox"/>	法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 【A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない】					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input type="checkbox"/>	事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 【効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い】					
B	<input type="checkbox"/>	単位あたりの経費は適正である。			
	<input type="checkbox"/>	これ以上コスト節減の余地がない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力の導入の可能性 【有・無】					
無	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。			
12 総合評価					
(1) 自動判定結果					
	〔 〕：良好な状態を維持する事業				
	〔 〕：概ね良好な状況である事業				
	〔 〕：見直しを行う必要がある事業				
	〔 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業				
(2) 担当課の課長による評価（今後の方向性）			(3) 課長の評価に関する説明		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実		バス停への上屋設置事業は、道路占用上の制約条件や、事業者の財政面も考慮することから、現状で進めざるを得ない。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策 実施事業を着実に推進すると共に、バス停の現状を総合的に捉え、乗降箇所の改善（道路改良を含む）、ベンチや背壁の設置検討等、安全で快適なバス待ち環境を確保し、バス交通の活性化を図る。			14 課題として認識されたこと バス停の設置や設置箇所の改善には、地先及び沿線住民の理解と協力が不可欠であることに加え、バス利用のマナー向上が課題となっている。 また、財政的支援の強化も検討すべき課題である。		
15 二次評価					
(1) 行政評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実			
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			